

タイ王国の南部に位置するカオラック。
美しいビーチには、良質なブレイクが届く



美しい海と砂浜を有するビーチリゾートとして、絶大な人気を誇るカオラックは、2004年に起こったスマトラ島沖地震による津波被害で大惨事となった場所としても知られている

アメリカ人のマット・ブラウアーは、タイ人の妻とふたりの子供とともに、タイで7年にわたって生活を送っている。彼はタイに移住後、すぐにサーフエリア探索を始めたわけではない。タイでサーフ可能なエリアが存在することを薄々感じてはいたものの、仕事や家族のことで忙しく、あまり時間がなかったのだ。しかし、徐々に生活にも慣れ、時間の余裕ができると、タイでも十分にサーフできると確信を持つようになった。そして2008年には、グーグルアースを活用してツーリズムを望めるエリアを探し出し、そのエリアでコンスタントにサーフ可能であることを確認すると、サーフショップをオープンすることにした。そこは、プーケット空港から1時間ほど北に位置するカオラックという場所で、プーケット以外で

は初となる本格的なサーフショップの誕生となった。同ショップでは、スタンドアップパドルを含む、あらゆるタイプのボードレンタルが可能となっている。現在マットは、沖合の島々をターゲットにサーフスポットを探索し続けているという。彼はいつも、自身のサーフショップがあるケープ・パカランでサーフする。そこには3つのピークがあり、レフトハンダーが「コーナー」と「ツリー」、そしてライトハンダーが「タクシーズ」。日によっては、ツリーでもライトハンダーがブレイクすることもある。そこに入っているのは、ローカルのタイ人がひとり、リタイアした日本人がひとり、数人の欧米人、マット程度しかいない。たまにプーケットから足を運んでくるサーファーもいるが、大した人数ではない。

カオラックは、プーケットよりもコン

スタントに波が入る可能性が高い。理由としては、インド洋から長時間かけてやってくるスウェルが、スマトラ島にブロックされないという点にある。しかも、混雑とは無縁のポイントが多々存在するため、サーフィンの練習にはうってつけの場所だ。メインシーズンは、4～10月のモンスーン期であり、1～6ftのスウェルがコンスタントに入ってくる。モンスーン期のなかでも、もっともコンディションが整うのは7月と8月。10～4月は、1～3ftとスモールコンディションではあるものの、ロングボーダーやビギナーにとっては最適なブレイク。同エリアのなかで1番波質がいいのはケープ・パカランのリーフブレイクで、ふたつのレフトハンダーとひとつのライトハンダーがある。その周辺には無数のビーチが点在

し、誰もサーフしたことがないブレイクもある。ナントンビーチ、バンニャン河口、ククカック河口などにはコンスタントに波がたつ。

リアルサーファーたちが満足するほどのピックアップの波をあてることが難しいのは事実。しかし、温かな海水、ヘルシーフード、安くてもクオリティの高い宿、さらにはタイでのサーフィン体験という点を考慮すれば、十分にトリップに行く価値があるのではないだろうか。

www.pakarangsurfshop.com

アントニー・イエップ・コーラス
フランス出身。自身が経営するYEP社で、世界を網羅するサーフスポットのデータベース「Worldwide Surfspot 2.0」を構築している。30カ国、45回におよぶサーフトリップで収集した情報は「英ワールドストームライダーガイド誌」のほか「サーフトリップネット(www.surftrip.net)」などに反映されており、世界中のサーファーが旅のバイブルとして利用している。ワールドワイドに活動しているため、各国のサーフコミュニティへの造詣も深い